

平成22年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名

医療事故を経験した看護師への成長へつなげるための周囲の対応

学位の種類： 修士（看護学）

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号 09894601

氏名：岩崎 紘子

(指導教員名：志自岐 康子)

【目的】本研究の目的は、医療事故の経験を成長へつなげられた看護師の、事故後に周囲から受けた対応を明らかにすることである。

【方法】研究参加者は、ポスター等により任意で同意が得られ、臨床経験年数3年以上の管理職に就いていない看護師8名であった。研究参加者1人につき、50分から80分の半構造化面接を実施し、得られたデータを質的帰納的に分析した。

【倫理的配慮】研究協力施設および研究参加者へ、文書にて研究の主旨、参加への自由意志の尊重、プライバシーの厳守について説明し、同意を得た。また、本研究は首都大学東京荒川キャンパス研究安全倫理委員会の承認を得て行った。研究協力施設での倫理審査が必要な場合は、その施設の倫理審査委員会の承認を得て行った。

【結果】分析の結果、70のコードから、16のサブカテゴリーが抽出され、最終的には、4つのカテゴリーが抽出された。以下、カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを《 》で示す。【自分に向き合ってくれる】では、上司や同僚が《こちらを向いて話を聴いてくれる》、《つらい気持ちを汲みとってくれる》、周囲の医療職者や患者・家族が《これまでと変わらずに自分を認めてくれる》対応であり、事故以前と変わらずに、当事者と接してくれることであった。【責めずにいてくれる】では、《冷静に対応してくれる》、《考えを肯定的に聴いてくれる》、《めりはりを付けて対応してくれる》という、上司や先輩看護師の対応により、当事者は安心して事故の報告や対応を行うことができていた。また、《個人を責めずに全体の問題としてふり返る》ことで、当事者は自分を責めることに終始するのではなく、全体の問題としてふり返るようになった。【守ってくれる】では、《気にかけてくれる》、《事故対応を一緒に行ってくれる》、《自分を表出しやすい空気を作ってくれる》ことで、当事者の「自分はここに居ていいのだ」という思いにつながり、《事故への責任を取るという姿勢で接してくれる》上司に対して、当事者は信頼感を抱いていた。そして事故に関わった多くの看護師のフォローを病棟全体で行う、《病棟として失敗を引き受ける》風土が存在していた。【次に進められるよう導いてくれる】での《リーダーシップをとれる人がいる》のリーダーは、《事故の原因を明確にできる》能力があり、《当事者側の問題点に気づかせてくれる》よう助言をし、《事故後の方向性を示してくれる》対応を行っていた。

【考察】医療事故の重大性に関わらず、当事者へ個別的な事故後の対応を行うことが重要である。またリーダーシップのとれる看護師の存在が必要であり、そのような看護師を教育する体制の構築の重要性が示唆された。